
僕とおかんと狂気の父　?

クレイジーダディ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕とおかんと狂氣の父
?

【Zコード】

Z5307BA

【作者名】

クレイジーダディ

【あらすじ】

前回までのあらすじ

やあ、僕はダイキ。

十五歳の誕生日に父がくれたのは、母を取り込んで完成した超汎用人型兵器、オカンゲリオン。

ええっ、これに乗れってどういう事よ？おまけに、敵はデブルガンドムに取り込まれた兄ちゃん？

兄ちゃんを引きこもり部屋から引きずり出すその日まで、俺の戦

いは終わらないっ！

さあ、我が家家の平和を取り戻すその日まで、戦うんだ、俺！

今日は学園モノか？の巻

「何やつてんですか！」

俺は父が掲げているプラカードを奪い取り、叩き折った。

「完璧に俺のキャラが崩壊してるじゃないですか。大体、誰に向けての文章なんですか、これ？」

「ううう、前回を読んでないドクシャさまに？」

「わけの解らないメタはやめて下さいよ！」

俺に一喝されて、父はオカングリオンの巨大な足元にすがりついた。

「母さん、ダイキがいじめるよう……」

（まあ、あの子も反抗期ですからねえ。）

改めて自己紹介しよう。俺はダイキ、『ぐく普通の十五歳だ。

ちょっと父がクレイジーだったり、ちょっと母が規格外のデカさ
だったり、兄の引きこもり部屋がMSだったりする以外は、『ぐく普
通の家庭で育つた、『ぐく普通の中学生だ。

「自分だつてメタ……」

「残念でした」、カツコに入れなければメタ『発言』じゃないんで
す。」

（まあ、まあ、喧嘩しないで。）

オカングリオンは大きな指で俺をつまみ上げた。

（ほらほら、遅刻しちゃうわよ。）

母は俺の口にトーストを突っ込んだ。

「あー、いいな。母さん、わしも〜。」

（もう、父さんつたら、甘えんぼ？）

バカッフル漫才に付き合っている余裕はない。
俺はカバンをひとつつかむと、表へ飛び出した。

早足で歩く通学路には、すでに制服を着た学生の姿は無い。やばい。あと五分早く起きるべきだった。

近道をしようと通学路を外れ、公園を横切ろうとした俺は、滑り台の上に学ランを着た人物を見つけてしまった。

あちやー、面倒なことに……

「おーい、ダイキ、早くしないと遅刻するよ?」

レポート用紙の束を抱えて、人懐っこく手を振っている彼は幼稚園からの幼馴染だ。知らん顔するわけにもいかない。

「ユウトー!お前だつて遅刻するだる。こんなところで何やつてんだよ。」

「んー、宇宙の収縮率から見たこの公園の消滅点を計算したくなっちゃつてね。」

超がつくほど天才児である彼の言つ事は、俺には全く理解不能だ。

「それはまた今度にして、学校に行こう?」

「いいよ。ちよつと最期の証明も終わつたところだしね。」

俺はユウトを引きずるようにして走り出した。

何とか遅刻だけは免れた。急いでユウトの机の上を整えてやる。
「一時間目は国語だぞ。お前、国語の教科書は?」
「ああ、国語。そつか、国語ね。」
頼むから、そう言えばそんな教科もありましたね、みたいな顔しないでくれよ。それでなくとも、あの先生に目をつけられてるんだからさ、お前は。

「別に、日本語なんか解らなくても、日常生活に困らないしつ。」
ほう、今お前が話している、それが何語か言つてみろ!
そうしている間にも、始業の時間は迫つてくる。俺はガコンと机をひつ付け、俺の教科書を真ん中に広げた。

「なんだ、また教科書を忘れたのか。」

嫌みの好きな国語教師は、教室に入つてすぐに、ユウトに目を付

けた。

「違うんですよ、先生。忘れたのは僕の方で……」

「クズがクズをかばうから、こいつがますますグズになるんだぞ。」

『『うまい事言つただろ?』』と言いたげな視線に、クラスのあちこちでお義理の笑い声が上がった。俺もお義理と愛想を込めてヘラリと笑う。

コウトだけは違つた。すっくと立ち上がり、

「先生、僕の友人を愚弄しましたね?」

「あ? 愚弄もするさ。先生は苦労しているからな。お前、この前の

テストも白紙で出しただろ?」

「それは、正解がなかつたからです。」

「正解がない? そんな訳がないだろ?」

次の文章を読んで、選択肢の中から作者の気持ちに最も近いものを選びなさい。

ア 戦争の愚かさといふものは文筆に表しきれないものである。

イ 戦争による損失は物的なものだけではない。

ウ 私をここまで育ててくれたのは皮肉にも戦争体験であるさあ、正解はどれでしよう? それとも天才君は『消去法』とかつて知らないのかなあ。』

「ふん、愚直な。この作問者は、作者にインタビューでもしたんですね? それとも、作者が直々に問題を作つてくれたとか?」

「へ理屈はいらない! 正解はどれかと聞いていいんだ。」

「正解……正解が聞きたいんですけど。」

コウトの瞳が怪しく光るのを、俺は見逃さなかつた。やばい! コウトのやつ、アレをやる気だ……。

「教えてあげますよ、正解を。そして、お前の人生の間違いを……」

「ちょっと待つたターックル!」

俺は先生に詰め寄るうとするコウトを思いつき突き飛ばした。

「先生! 今ので、俺もこいつも怪我をしました。保健室へ行つてき

ます！「

俺はコウトを引きずるよにして教室を飛び出した。

今回は学園モノか？の巻（後書き）

あとがきドラマ
兄ちゃんの就職

あーあ、この引きこもり部屋から出るなんて、考えたくもない。
オレは求人誌のページをめくつた。
ん？自家用車での出勤可？デブルガンダムは自家用車に入るのか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5307ba/>

僕とおかんと狂気の父？

2012年1月14日18時48分発行